



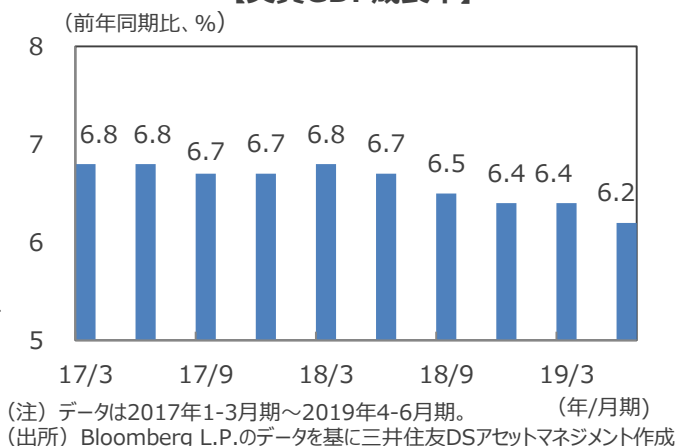
今日のトピック 減速傾向が続く中国経済（2019年7月）

4-6月期GDPは+6.2%に減速

ポイント1 4-6月期GDPは+6.2%
市場の予想通りながら過去最低

- 中国国家统计局は15日、主要経済指標を発表しました。19年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.2%と、前期から減速しました。市場の予想通りでしたが、統計を遡れる1992年以降で最低となりました。内訳をみると、4-6月期は内需中心に景気が下振れました。米中貿易摩擦の影響で輸出が減速し、内需に波及したとみられます。

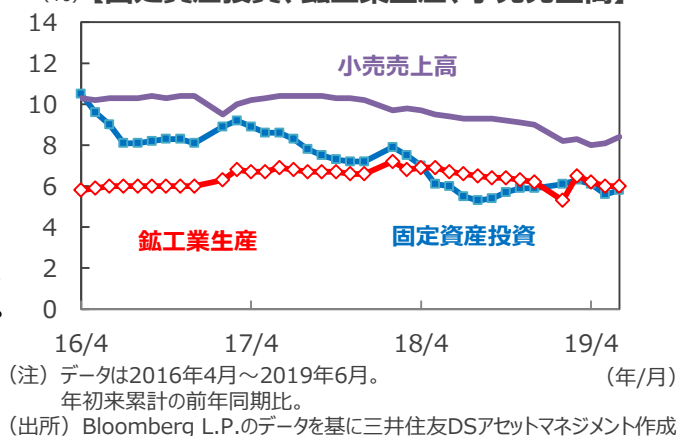
【実質GDP成長率】



ポイント2 1～6月は生産、投資減速
消費も力強さ欠く

- 19年1～6月の鉱工業生産は前年同期比+6.0%と、1～3月の同+6.5%から減速しました。販売が低迷する自動車の生産や米国による追加関税の影響から産業用ロボットなどの生産が振るいませんでした。
- 1～6月の固定資産投資も前年同期比+5.8%となり、1～3月の同+6.3%から伸び率が縮小しました。内訳をみると、製造業の投資が減速しています。また、インフラ投資は1～6月に同+4.1%と低い伸びでした。
- 1～6月の小売売上高は前年同期比+8.4%と、1～3月の同+8.3%から小幅に伸びましたが、9%台だった前年からの鈍化傾向は続いています。

【固定資産投資、鉱工業生産、小売売上高】



今後の展開 中国政府は景気対策を継続

- 6月末に米中首脳会談が行われ、両国首脳は米中協議を再開することで合意し、両国間の報復合戦で緊張がさらに高まるという最悪の事態を回避しました。ただし、現段階では、米中協議の不透明感が強く、中国の景気センチメントはすぐには改善しないと思われます。米中貿易摩擦がこのまま継続すれば、景気に下押し圧力がかかるため、中国政府は19年の成長率目標「6.0～6.5%」の達成に向けて景気対策を継続し、景気失速を回避させるとみられます。

ここもチェック! 2019年7月11日 アジア・トーク「米中首脳会談後の中国経済・市場」
2019年7月 9日 運用者の視点：アリババが『香港上場』を申請

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。